

2023年度 日本臨床検査医学会 第3回理事会 議事録

日時：2023年10月29日（日）15：00～17：45

開催方法：現地とWebのハイブリッド開催

議事録署名人：出席した理事長、副理事長、監事

出席（現地）：大西宏明 理事長、田部陽子副理事長、久谷直人会計理事、古川泰司総務理事、
吉田 博、矢富 裕、堀田多恵子各理事、諏訪部章監事（8名）

出席（Web）：木村 聡、松下一之、満田年宏、森兼啓太（冒頭の30分のみ出席）、井上克枝、下 正宗各理事、
高橋 聡、志村浩己、東田修二、伊藤弘康、山崎正晴、大澤春彦、柳原克紀各支部理事（13名）

欠席：日高 洋理事、古田 耕監事（2名）

I 開会、理事長挨拶（大西宏明 理事長）

大西宏明理事長から理事会が成立すること、議事録署名人は出席した理事長と監事が記名押印することを報告のうえ、一言挨拶があり議事を進めた。

II 報告事項

1. 支部報告

各支部の終了した例会・総会・地方会、そして例会・総会・地方会の予定、支部役員の交代、支部での検査関係の教授、部長、技師長の退任・新任等について報告があった。

2. 各種委員会報告

1) 学術推進化委員会（矢富 裕 担当理事）

第70回学術集会期間中の2023年11月18日（土）に学術推進プロジェクト研究結果 最終報告/発表を予定していることが報告された。

2) 編集委員会（久谷直人 担当理事、吉田 博 委員長）

優秀論文賞の選考を行い学会賞委員会に報告したこと、英文誌論文投稿システム ScholarOne Manuscripts の調整を行い稼働させ、Laboratory Medicine International (LMI)の2巻1号（6月）と2号（9月）を発刊し3号は12月に発刊予定であること、LMI専用のWEBページを作成すること、投稿論文審査の検討を行ったこと、日本臨床検査医学会誌のトピックス立案を行ったこと、第70回学術集会に委員会企画として国際委員会と合同シンポジウムを企画していること、ScholarOne Manuscripts の2024年度契約および国内誌のJ-STAGE 搭載について検討したこと、投稿原稿審査状況について報告された。

3) 医療安全委員会（森兼啓太 担当理事）

PMDAからの不具合情報を選択し、必要に応じて本学会会員に配信することが報告された。

4) 学術集会企画委員会（柳原克紀 委員長）

第70回学術集会会期中の11月17日（金）に、2023年度第1回委員会を開催予定であることが報告された。

5) 新型コロナウイルスに関するアドホック委員会（柳原克紀 委員長）

これまでのCOVID-19の対応と今後に向けた備えについて総括準備していることが報告された。

6) 保険診療委員会（松下一之 委員長）

令和6年度保険診療報酬改定の状況について報告された。

7) 検査項目コード委員会（松下一之 担当理事）

JLAC10からJLAC11への移行、HL7 FIHRの導入について報告された。

8) 遺伝子委員会（松下一之 担当理事）

第70回学術集会において、委員会企画「網羅的遺伝子解析による臨床検査の現在とこれから」で、がん遺伝

子パネル検査や多遺伝子パネル検査の最新情報を、また、病理学会との共催シンポジウム「LDT・RUO と保険診療」で LDT の位置付けや課題を報告する予定であることが報告された。

3. 第 70 回学術集会報告（長崎 2023/11/16(木)～11/19（日）、柳原克紀 会長）

2023 年 11 月 16 日（木）～19 日（日）に、出島メッセ長崎（長崎）において、柳原克紀会長（長崎大）、副大会長：谷川寛雄先生、木村由美子先生、事務局長：佐々木大輔先生、運営事務局：（株）コンベンションリンクエージが担当し、「未来を見据えた臨床検査～次なるステージへの課題と挑戦～」をテーマとして開催予定であること、現地と一部オンデマンド配信予定であり、講演、日程表が報告され、多くの会員の参加を希望していることが報告された。

4. 第 71 回学術集会報告（長崎 2024/11/28(木)～12/1(日)、日野雅之 会長）（古川泰司 総務理事）

2024 年 11 月 28 日（木）～12 月 1 日（日）、大阪国際会議場（グランキューブ大阪）において、日野雅之会長（大阪公立大）のもと「臨床検査学の魅力と多様性にせまる」をメインテーマとして開催予定であり、事務局長：中前美佳先生（大阪公立大）、運営事務局：（株）サンプラネットメディカルコンベンションが担当することが報告された。

5. 第 72 回学術集会報告（千葉 2025/8/28(木)～8/31（日）、大西宏明 会長）

2025 年 8 月 28 日（木）～31 日（日）、千葉県幕張メッセにおいて、大西宏明会長（杏林大）のもと開催予定であり、運営事務局は（株）サンプラネットメディカルコンベンションが担当予定であり、現地と一部オンデマンド配信を予定していることが報告された。

ただ、開催時期が 8 月下旬であるため、演題募集、各賞の受賞候補者の募集、評議員、名誉会員、功労会員候補者推薦時期の繰り上げなど、事前に対処していく必要があるため、理解、協力依頼がなされた。

6. 本学会からの関連団体派遣委員について（更新）（大西宏明 理事長）

前回事業（7 月 8 日）以降に新たに当会からの派遣が決まった委員等について報告された。

7) Catch Up セミナーの e-learning 配信について（大西宏明 理事長）

日本専門医機構専門医制度が開始された当時、教育委員会主催の Catch Up セミナーは e-learning（臨床検査領域講習）としてきた。しかし、学術集会の Web 配信が開始されたことから、委員会の e-learning は断念している。現在作成している e-learning は 5 件あり診療実績単位としているが、e-learning 作成は、かなりの時間と労力がかかることから、学術集会での Catch Up セミナーを教育委員会の e-learning として配信したいと考えている。しかし、学術集会の臨床検査領域講習と委員会の e-learning と両方を実施すれば重複するため、どのようにするのがよいか検討していることが報告された。

8. 支部理事の推薦依頼について（大西宏明 理事長）

2024・2025 年度支部理事について、12 月初旬に各支部に推薦依頼することが報告された。

9. 日本医学会連合門田班臨床内科グループ受託研究でのアンケート内容について（大西宏明 理事長、堀田多恵子 担当理事）

R5 年度日本医学会連合門田班臨床内科グループ受託研究の継続の受託依頼があり、引き続き当会臨床検査室医療評価委員会が担当している。研究「ポストパンデミックにおける臨床検査体制」のため、会員へのアンケート依頼を予定しており、内容について確認され特に意見等はなかったため、提示されたアンケート内容でアンケートを進めることが報告された。

10. 全ゲノム解析等の推進に関する専門委員会について（大西宏明 理事長、松下一之 理事）

がんゲノム解析と同様に全ゲノム解析が行われており、令和 7 年度から臨床応用を予定していること、検査の考え方を反映されるよう提案していることが報告された。

11. コロナ・インフルエンザコンピキットの市販について（大西宏明 理事長、下正宗 理事）

2023 年末に、コロナ・インフルエンザコンピキットが第一類医薬品となり、薬剤師の説明により販売してい

ることについて、日本プライマリ・ケア連合学会では認定薬剤師制度を運用しており、当学会でも薬剤師等に正しい検査の使用方法を伝える必要性について継続して検討することとなった。

12. ISBER ベストプラクティス、VIM4（国際計量計測用語）の翻訳協力について（大西宏明 理事長、松下一之 理事、古田 耕 監事）

ISBER ベストプラクティスの検査関連の和訳について、理事の協力により進めていること、VIM4（国際計量計測用語）の翻訳についても検討していることが報告された。

13. 厚生労働省 C-2 水準の研修等審査について（森兼啓太 理事）

C-2 水準審査について感染症領域の 1 病院の審査をシステム上で行ったことが報告された。

14. その他

・日本専門医機構認定臨床検査専門医更新での診療実績の証明の免除の廃止について（大西宏明 理事長）

日本専門医機構より、機構専門医更新で複数回更新を経た専門医の更新（現在当領域では 3 回以上の更新者、65 歳以上の更新者）について、診療実績の証明の免除はしないと決定した通知があった。

2027/4/1 付更新以降は、診療実績を提出することになるが、提出以外の方法として、自己学習の利用、自己学習を促進するとともに適切な診療能力の有無の判断を目的とした筆記試験等の実施（open book examination や e-testing を含む）、専門医認定のための筆記試験の一部を更新のための試験（e-testing 含む）が認められる。

筆記試験やその合格基準は領域ごとの専門医委員会（試験委員会）で決定するようにとのことであり、今後、更新基準の改定、当領域としての対応策を検討していくことが報告された。

Ⅲ 審議事項

1. 2023 年度中間事業報告について（古川泰司 総務理事）

2023 年度中間の事業報告、各種委員会中間活動報告がなされ、承認された。

2. 2024 年度事業計画案について（古川泰司 総務理事）

2024 年度事業計画（案）の説明がなされ、承認された。

3. 2023 年度会計中間実績・2024 年度予算案について（メ谷直人 会計理事、大西宏明 理事長、野澤孝志 開会顧問）

2023 年度中間実績：2023/1/1～2023/6/30 までの実際の収入と支出の実績額である。

2024 年度予算案：収入、支出とも 2023 年度予算をほぼ踏襲しているが、下記の変更点が報告され審議のうえ承認された。

なお、会計顧問より当会の消費税の課税方式について、基準期間における課税売上高が 5 千万円以下の課税期間は消費税簡易課税制度の適用があるため、事前に従前のデータを活用して有利判定し、必要があれば適宜届出書を提出することが報告された。

一般会計（収入）：

- ・名誉臨床検査専門医更新が始まるため追加した。
- ・外販収入は、2023 年度決算額から同額程度にした。
- ・検査診断事典での印税等は保険診療改定がある年のため 2022 年決算と同程度にした。
- ・ハンズオンセミナー助成金に日本臨床検査専門医会からの協賛金を加算した。
- ・臨床検査のガイドライン JSLM2024 を作製予定のため特別会計より 500 万円を一般に組み入れた。

一般会計（支出）：

- ・英文誌制作費について、制作費のほか ScholarOne2 年目の年間利用料・サポート費用を立てた。
- ・ハンズオンセミナー補助金は各種委員会補助金に組み入れた。
- ・専門医認定試験費用として例年の 200 万円に加えて、試験のための PC 購入費用 100 万円を加算し 300 万円とした。
- ・新専門医制度費用に 2024 年度から運用予定の遺伝子関連検査認定医・専門医認定のための費用を加えた。
- ・ホームページ作成・更新料について、例年の 40 万円に加えて英文版作成費用として 30 万円を加算し 70

万円とした。

- ・外注作業費は給与・手当に組み入れた。
- ・ワークライフバランス委員会 WS 諸費用は、2022 年から実施していないため削除した。
- ・会員証発行費用を雑費に組み入れた。

特別会計：

- ・臨床検査のガイドライン JSLM2024 制作のため一般に 500 万円を振替予定。

アジア交流基金：

- ・当会理事長が ASCPaLM 会計担当になるため、ASCPaLM 会費にその諸経費加え関連費用とした。

学会賞基金：

- ・例年通りの内容。

4. 標準化委員会、保険診療委員会委員の追加について（大西宏明 理事長）

任期は 2023 年 10 月 29 日～2024 年 3 月 30 日となるが、標準化委員会委員として脇田満先生（順天堂大）、保険診療委員会委員として涌井昌俊先生（慶應義塾大）を追加することについて諮られ承認された。

5. 2024・2025 年度臨床検査専門医認定試験実行委員会 委員長について（大西宏明 理事長）

2024・2025 年度臨床検査専門医認定試験実行委員会委員長について、蔵野信先生（東京大）に依頼することが諮られ、承認された。

6. 遺伝子関連検査認定医・専門医について（大西宏明 理事長、田部陽子 副理事長）

遺伝子関連検査認定医と専門医の認定制度の発足については、前理事会で承認されているが、認定対象は、臨床検査専門医（以降専門医）、臨床検査管理医（以降管理医）とする。専門医に関しては遺伝子関連検査認定医・専門医を、管理医については遺伝子関連検査認定医を認定可能とする。2024 年 4 月から受験資格取得のため指定する講習の受講を e-learning で開始、2026 年に認定試験（専門医は e-test、管理医は現地試験）を実施予定であることが提案され、承認された。

7. 支部規約について会則改定委員会：田部陽子 委員長、谷直人 担当理事）

前理事会で支部雛形を示して、7 支部に支部規約の作成を依頼した。全支部からの支部規約が提示され、一部指摘があった箇所については訂正することを前提に承認された。

8. 2024 年度からの功労会員・社員（評議員）の推薦について（大西宏明 理事長）

功労会員、評議員の推薦について資格要件が確認され、次項の通り功労会員、評議員として社員総会に推薦することが承認された。

- 1) 功労会員は、関東・甲信越支部から海渡健先生、加藤博之先生、佐藤麻子先生、長沢光章先生、濱田悦子先生、三井田孝先生、三宅一徳先生の 7 名、東海・北陸支部から木村秀樹先生、齋藤勝彦先生、山田鉄也先生の 3 名、近畿支部から中町祐司先生の 1 名、九州支部から大久保久美子先生の 1 名で合計 12 名。
- 2) 評議員は、東北支部から富田泰史先生の 1 名、関東・甲信越支部から青木智之先生、伊藤真以先生、小笠原洋治先生、奥橋佑基先生、越智小枝先生、紺野啓先生、清水直美先生、竹下享典先生、政木隆博先生、柳沢龍先生、湯地晃一郎先生の 11 名、東海・北陸支部から酒井康弘先生の 1 名、近畿支部から上野智浩先生の 1 名、中国・四国支部から西岡光昭先生、藤井敬子先生、山本英喜先生の 3 名、九州支部から大枝敏先生の 1 名で合計 18 名。

9. 評議員（社員）再任予定者（2024/01/01 付）について（大西宏明 理事長）

2024 年 1 月 1 日付評議員再任予定者 27 名が提示された。再任手続きは、2023 年 12 月 26 日開催予定の評議員審査委員会での審査、審議会後となるが、評議員再任には社員総会の承認が必要のため、本理事会、2023 年 11 月 16 日の臨時社員総会の承認を得ておきたい。ただし、再任単位を満たさない場合は退任となることを前提に、2024 年 1 月 1 日付の評議員再任予定者 27 名について承認された。

10. 2024 年度各契約更新について（大西宏明 理事長）

2024 年度、次項の契約更新について検討され、宇宙堂八木書店に委託している外部販売については、掛け率

を70%から60%への変更の要望があったことについて審議され、それも含めて承認された。

- ・顧問（弁護士：古川俊治先生、会計：野澤孝志先生）
- ・日本臨床検査医学会誌編集製作：宇宙堂八木書店
- ・事務委託：宇宙堂八木書店
- ・広告募集：日本廣業社、学術広告社
- ・外部販売：宇宙堂八木書店

11. 第73回（2026年）学術集会 会長の推薦について（大西宏明 理事長）

2026年 第73回学術集会会長について、関東・甲信越支部より吉田博先生（東京慈恵会医科大学柏病院）が推薦された。その他、北海道支部、中国・四国支部からは推薦がなかった。協議の結果、理事会として吉田博先生を第73回学術集会の会長として社員総会に推薦することが承認された。

12. その他

2024年度理事会、社員総会日程の確認（古川泰司 総務理事）

次回2024年度の理事会、定時社員総会の日程が報告され、確認依頼がなされた。

- ・2024年度第1回理事会、定時社員総会：2024年3月30日（土）

IV 閉会の挨拶（田部陽子 副理事長）

田部陽子副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以上

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し出席理事長、副理事長及び監事がこれに記名押印する

2023年11月13日

一般社団法人日本臨床検査医学会 理事会

議長 理事長 大西宏明

副理事長 田部陽子

監事 諏訪部章